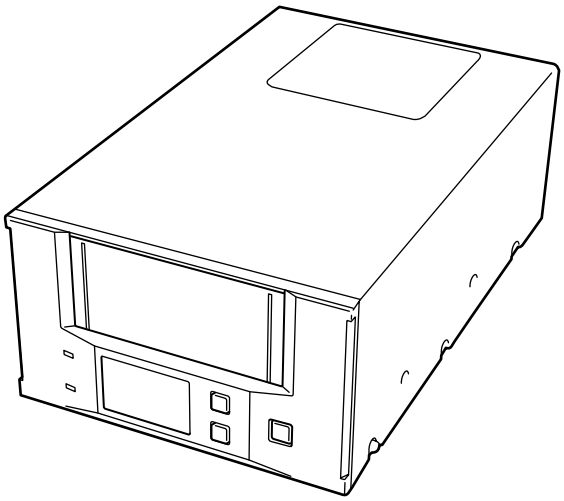
MN8151-39
内蔵DAT集合型

取扱説明書



製品をご使用になる前に必ず本書をお読みください。
本書は熟読の上、大切に保管してください。

4-672-917-**02**(1)

商標について

Microsoftとそのロゴ、Windows、およびWindows NTは米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
Digital Data Storageはソニー株式会社の商標です。

記載の会社名および商品名は各社の商標または登録商標です。

Windows NT 4.0はMicrosoft® Windows NT® Server network operating system version 4.0、およびMicrosoft® Windows NT® Workstation network operating system version 4.0の略称です。

Windows 2000は、Microsoft® Windows® 2000 Professional、Microsoft® Windows® 2000 Server、およびMicrosoft® Windows® 2000 Advanced Serverの略称です。

サンプルアプリケーションで使用している名称は、すべて架空のものです。実在する品名、団体名、個人名とは一切関係ありません。

海外でのご使用について

この装置は、日本国内での使用を前提としているため、海外各国での安全規格等の適用を受けておりません。したがって、この装置を輸出した場合に当該国での輸入通関および使用に対し罰金、事故による補償等の問題が発生することがあっても、弊社は直接・間接を問わず一切の責任を免除させていただきます。

ご注意

(1) 本書の内容の一部または全部を無断転載することは禁止されています。
(2) 本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
(3) 許可なく複製・改変などを行うことはできません。
(4) 本書は内容について万全を期して作成いたしましたが、万一ご不審な点や誤り、記載もれなどお気づきのことがありましたら、お買い求めの販売店にご連絡ください。
(5) 運用した結果の影響については(4)項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。

この取扱説明書は、必要なときすぐに参照できるよう、お手元に置いておくようにしてください。「使用上のご注意」を必ずお読みください。

⚠ 使用上のご注意 ～必ずお読みください～

本装置を安全に正しくご使用になるために必要な情報が記載されています。

安全にかかわる表示について

本書にはどこが危険か、指示を守らないとどのような危険に遭うのか、どうすれば危険を避けられるかなどについて説明されています。また、装置内で危険が想定される箇所またはその付近には警告ラベルが貼り付けられています。
本書、および警告ラベルでは危険の程度を表す言葉として、「警告」と「注意」という用語を使用しています。それぞれの用語は次のような意味を持つものとして定義されます。

⚠警告 **指示を守らないと、人が死亡する、または重傷を負うおそれがあることを示します。**

⚠注意 **指示を守らないと、火傷やけがなどを負うおそれや物的損害を負うおそれがあることを示します。**

危険に対する注意・表示は次の3種類の記号を使って表しています。それぞれの記号は次のような意味を持つものとして定義されています。

△	**注意の喚起**	この記号は指示を守らないと、危険が発生するおそれがあることを表します。記号の中の絵表示は危険の内容を図案化したものです。	(例) (感電注意)
⃠	**行為の禁止**	この記号は行為の禁止を表します。記号の中や近くの絵表示は、してはならない行為の内容を図案化したものです。	(例) (接触禁止)
●	**行為の強制**	この記号は行為の強制を表します。記号の中の絵表示は、しなければならない行為の内容を図案化したものです。危険を避けるためにはこの行為が必要です。	(例) (プラグを抜け)

（本書での表示例）

注意を促す記号　危険に対する注意の内容　危険の程度を表す用語

⚠ 注意

電源がON のまま取り付け・取り外しをしない

基本処理装置への取り付け・取り外しの際や、周辺機器との接続の際は必ず主電源に接続している電源コードをACコンセントから抜いてください。電源コードがACコンセントに接続されたまま取り付け・取り外しや接続をすると感電をするおそれがあります。

本書および警告ラベルで使用する記号とその内容

注意の喚起

	感電のおそれがあることを示します。		発煙または発火のおそれがあることを示します。
	指などがはさまれるおそれがあることを示します。		特定しない一般的な注意・警告を示します。

行為の禁止

	特定しない一般的な禁止を示します。		本装置を分解・修理・改造しないでください。感電や火災のおそれがあります。
	本装置の電源プラグをコンセントから抜いてください。火災や感電のおそれがあります。		

行為の強制

	本装置の電源プラグをコンセントから抜いてください。火災や感電のおそれがあります。		特定しない一般的な使用者の行為を指示します。説明に従った操作をしてください。

安全上のご注意

本装置を安全にお使いいただくために、ここで説明する注意事項をよく読んでご理解し、安全にご活用ください。記号の説明については巻頭の『安全にかかわる表示について』の説明を参照してください。

全般的な注意事項

⚠ 警告

人命に関わる業務や高度な信頼性を必要とする業務には使用しない

本装置は、医療機器・原子力設備や機器、航空宇宙機器・輸送設備や機器など、人命に関わる設備や機器および高度な信頼性を必要とする設備や機器などへの組み込みやこれらの機器の制御を目的とした使用は意図されておりません。これらの設備や機器、制御システムなどに本装置を使用した結果、人身事故、財産被害などが生じても当社はいかなる責任も負いかねます。

煙や異臭、異音がしたまま使用しない

万一、煙、異臭、異音などが生じた場合は、ただちに基本処理装置の電源をOFFにして電源コードをAC コンセントから抜き、本装置のDCケーブルを抜いてください。その後、お買い求めの販売店または保守サービス会社にご連絡ください。そのまま使用すると火災の原因となります。

針金や金属片を差し込まない

通気孔やカートリッジ挿入口から金属片や針金などの異物を差し込まないでください。感電の危険があります。

⚠ 注意

海外で使用しない

本装置は、日本国内専用の装置です。海外では使用できません。この装置を海外で使用すると火災や感電の原因となります。

装置内に水や異物を入れない

装置内に水などの液体、ピンやクリップなどの異物を入れないでください。火災や感電、故障の原因となります。もし入ってしまったときは、すぐに基本処理装置の電源をOFFにして電源コードをACコンセントから抜き、本装置のDCケーブルを抜いてください。分解しないで販売店または保守サービス会社に連絡してください。

電源・電源コードに関する注意事項

⚠警告

ぬれた手でDCケーブルを持たない

ぬれた手でDCケーブルの抜き差しをしないでください。感電するおそれがあります。

⚠注意

電源がONのまま取り付け・取り外しをしない

基本処理装置への取り付け・取り外しの際や、周辺機器との接続の際は必ず主電源に接続している電源コードをACコンセントから抜いてください。電源コードがACコンセントに接続されたまま取り付け・取り外しや接続をすると感電をするおそれがあります。

中途半端に差し込まない

DCケーブルはしっかりと差し込んでください。中途半端に差し込むと接触不良のため発熱し、火災の原因となることがあります。また差し込み部にほこりがたまり、水滴などが付くと発熱し、火災の原因となるおそれがあります。

指定以外の接続をしない

DCケーブルの接続や配線は本書の説明に従って正しく行ってください。指定以外の接続や配線は火災や感電の原因となるおそれがあります。

破損したケーブルを使用しない

ケーブルを接続する前にコネクタが破損していたり、コネクタピンが曲がっていたり、汚れたりしていないことを確認してください。破損や曲がっているコネクタおよび汚れたコネクタを使用するとショートにより火災を引き起こすおそれがあります。

指定以外のケーブルを使用しない

基本処理装置と接続するケーブルは当社指定のものを使用し、接続先をよく確認してください。指定以外のケーブルを使用したり、指示とは異なる接続のまま使用したりすると火災を引き起こすおそれがあります。

設置・移動・保管・接続に関する注意事項

⚠ 注意

通気孔をふさがない

本装置の前面にある通気孔をふさがないでください。内部の温度が上昇し、誤動作の原因となるばかりでなく、火災や感電の原因となります。

プラグを差し込んだままインタフェースケーブルの取り付けや取り外しをしない

インタフェースケーブルの取り付け／取り外しは基本処理装置の電源コードをコンセントから抜いて行ってください。たとえ電源をOFFにしても電源コードを接続したままケーブルやコネクタに触ると感電したり、ショートによる火災を起こしたりすることがあります。

指定以外のインタフェースケーブルを使用しない

インタフェースケーブルは、指定するものを使用し、接続する装置やコネクタを確認した上で接続してください。指定以外のケーブルを使用したり、接続先を誤ったりすると、ショートにより火災を起こすことがあります。

また、インタフェースケーブルの取り扱いや接続について次の注意をお守りください。

- ケーブルを踏まない。
- ケーブルの上にものを載せない。
- ケーブルの接続がゆるんだまま使用しない。
- 破損したケーブルを使用しない。
- 破損したケーブルコネクタを使用しない。
- ネジ止めなどのロックを確実に行ってください。

お手入れに関する注意事項

⚠警告

自分で分解・修理・改造はしない

本装置の分解や、修理・改造は絶対にしないでください。装置が正常に動作しなくなるばかりでなく、感電や火災の危険があります。

プラグを差し込んだまま取り扱わない

お手入れは、基本処理装置の電源をOFFにして、電源コードをACコンセントから抜き、本装置のDCケーブルを抜いてください。たとえ電源をOFFにしても、電源コードを接続したまま装置内の部品に触ると感電するおそれがあります。

⚠注意

中途半端に取り付けない

DCケーブルやインタフェースケーブルは確実に取り付けてください。中途半端に取り付けると接触不良を起こし、発煙や発火の原因となるおそれがあります。

運用中の注意事項

⚠ 注意

カートリッジ挿入口に手を入れない

カートリッジ挿入口に手を入れないでください。手を挟まれたり、巻き込まれたりしてけがをするおそれがあります。

雷がなったら触らない

雷が鳴りだしたら、DCケーブルに触れないでください。感電の原因となります。

ペットを近づけない

本装置にペットなどの生き物を近づけないでください。排泄物や体毛が装置内部に入って火災や感電の原因となります。

近くで携帯電話やPHS 、ポケットベルを使わない

本装置のそばでは携帯電話やPHS 、ポケットベルの電源をOFF にしておいてください。電波による誤動作の原因となります。

正しく動作させるために

本装置を正しく動作させるために、次の点について注意してください。
DDSデータカートリッジの取り扱いに関する注意事項については、「DDSデータカートリッジについて」を参照してください。

本体について

- **本装置のSCSI IDとその他のSCSI機器のSCSI IDが重複しないように設定してください。**

  → 誤動作の原因となります。

- **本装置前面にあるBUSY LEDが点灯、または点滅しているときに基本処理装置の電源をOFFにしないでください。**

  → 故障、およびバックアップデータの破損の原因となります。

- **本装置を直射日光の当たる場所に保管しないでください。**

  → 正常に動作しなくなるおそれがあります。

- **本装置を腐食性ガスの発生する場所、薬品類の近くや薬品類がかかるおそれのある場所に保管しないでください。**

  → 部品が変形したり傷んだりして正常に動作しなくなるおそれがあります。

- **本装置を強い振動の発生する場所に保管しないでください。**

  → 故障の原因となります。

- **本装置の上にものを置いた状態で使用したり、保管したりしないでください。**

  → 故障の原因となります。

- **本装置を急激に温度が変化する場所に保管しないでください。**

  → 故障の原因となります。

- **本装置にセットするデータカートリッジには、「DDSデータカートリッジ」を使用してください。**

  → DDSデータカートリッジ以外のデータカートリッジを使用するとリード／ライトエラーを起こすことがあります。

- **本装置のクリーニングには、付属のクリーニングカートリッジもしくは、DDSの「4mmクリーニングカートリッジ」を使用してください。**

  → 上記以外のクリーニングカートリッジを使用すると故障の原因となることがあります。

- **カートリッジ、マガジンを入れたままでの移動はやめてください。**

  → 衝撃が加わったとき、装置やカートリッジを傷める原因となります。

- **バックアップ／リストア後は、カートリッジをマガジンに戻してください。**

  → カートリッジの寿命が短くなったり、誤動作の原因となるおそれがあります。

- **カートリッジ、マガジンが本装置の挿入口から飛び出している状態で長期間放置しないでください。**

  → カートリッジの寿命が短くなったり、本装置の故障の原因となるおそれがあります。

マガジンについて

- **マガジンの挿入口からカートリッジが飛び出している状態でマガジンを本装置に挿入しないでください。**

  → 故障や誤動作の原因となります。

- **マガジンをホコリやチリの多い場所、直射日光の当たる場所、湿気の多い場所に保管しないでください。**

  → マガジンにセットしたデータカートリッジ内のデータを破壊するおそれがあります。

- **マガジンを急激に温度が変化する場所に保管しないでください。**

  → マガジンにセットしたデータカートリッジ内のデータを破壊するおそれがあります。

- **マガジンを強い振動の発生する場所に保管しないでください。**

  → マガジンの破損およびマガジンにセットしたデータカートリッジ内のデータを破壊するおそれがあります。

- **マガジンを腐食性ガスの発生する場所、薬品類の近くや薬品類がかかるおそれのある場所に保管しないでください。**

  → 部品が変形したり傷んだりして正常に動作しなくなるおそれがあります。また、マガジンにセットしたデータカートリッジ内のデータを破壊するおそれがあります。

- **マガジンは専用のケースに入れて保管してください。**

  → マガジンを破壊するおそれがあります。

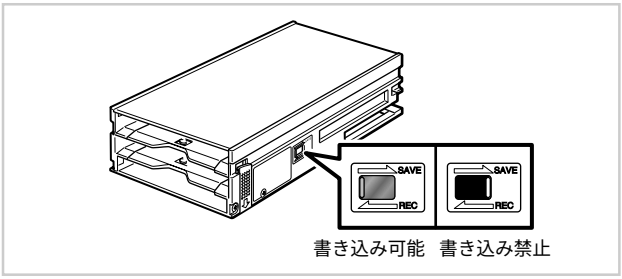
- **マガジンにデータカートリッジを挿入したまま輸送・保管をしないでください。**

  → 故障の原因となることがあります。

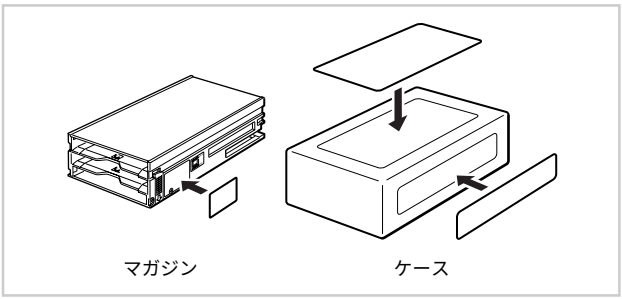
- **マガジンの上にものを置いた状態で保管しないでください。**

  → マガジンにセットしたデータカートリッジ内のデータを破壊するおそれがあります。

● **マガジンのライトプロテクトプラグを書き込み禁止に設定すると、マガジンに挿入されている全てのデータカートリッジの内容が保護されます(データカートリッジのライトプロテクトプラグが書き込み可能になっていても、マガジンのライトプロテクトプラグが書き込み禁止になっていれば、データの書き込みはされません)。**



● **マガジンのセットしているデータカートリッジの中身を認識できるようにするために、マガジンにラベルを貼っておくことをお勧めします。**



● **マガジンは、本装置専用のものをお使いください。**

→ 当社製以外のマガジンを使用するとリード／ライトエラーを起こすばかりでなく、データの破壊や本装置、マガジンの故障の原因となることがあります。

はじめに

このたびは、内蔵DAT集合型をお買い求めいただき、まことにありがとうございます。

内蔵DAT集合型は、「基本処理装置」で使用できる内蔵タイプのデータカートリッジドライブです。

DDS（Digital Data Strage）カートリッジに対応した高速ドライブには、最高8巻のDATデータカートリッジを搭載することができ、お客様の大切なデータのバックアップ、運用、管理をよりスムーズにすることでしょう。

本装置の持つ機能を最大限に引き出すためにも、ご使用になる前に本書をよくお読みになり、装置の取り扱いを十分にご理解いただけるようお願い申し上げます。

本書について

本書は、内蔵DAT集合型を正しくセットアップし、使用できるようにするための手引きです。内蔵DAT集合型のセットアップを行う場合や日常使用する上で、わからないことや具合の悪いことが起きたときにご利用ください。

本書は、内蔵DAT集合型を安全に、正しくお使いになるための事柄(セットアップや日常の取り扱いおよび保守)と内蔵DAT集合型で使用できるカートリッジ「DDSデータカートリッジ」を正しくお使いになるための事柄(取り扱い方法や保管方法)の2つの章から構成されています。

はじめて取り扱うときの読み方

本製品を梱包箱から取り出して、はじめて取り扱うときは次の順序で本書を参照して、セットアップをしてください。

1. 箱の中身を確認する ..... 箱の中身について(→16ページ)
2. 取り扱う上での注意事項を覚える ..... 使用上のご注意(→3ページ)
3. 内蔵DAT集合型の部品の名前を覚える . 各部の名称と機能(→20〜21ページ)
4. 取り付け前の設定をする ..... セットアップ(→22〜25ページ)
5. 基本処理装置に取り付ける ..... セットアップ(→25〜28ページ)
6. カートリッジの取り扱い方法を覚える .. DDSデータカートリッジについて(→46ページ)
7. カートリッジをセットする ..... 取り扱い(→29〜35ページ)
8. 液晶ディスプレイやLEDの表示を確認する ..... 液晶ディスプレイ(→35ページ) LED表示(→37ページ)
9. 内蔵DAT集合型の設定を変更する ..... 設定の変更(→38〜43ページ)
10. 内蔵DAT集合型をクリーニングする..... クリーニング(→44〜45ページ)

データの保存のしかたやデータの保存形式などの設定については、ソフトウェアに添付の説明書を参照してください。

本文中の記号について

本文中では次の2種類の記号を使用しています。それぞれの意味を示します(安全にかかわる表示については巻頭をご覧ください)。

重要	装置を取り扱う上で守らなければならない事柄や特に注意をすべき点を示します。
ヒント	知っておくと役に立つ情報や、便利なことなどを示します。

その他

第三者への譲渡について

本装置または本装置に添付されているものを第三者に譲渡(または売却)するときは、次の注意を守ってください。

●本装置本体について

本装置を第三者へ譲渡(または売却)する場合は、本書を一緒にお渡しください。

重要

テープ内のデータについて

使用していたテープに保存されている大切なデータ(例えば経営情報や企業の経理情報など)が第三者へ漏洩することのないように、お客様の責任において確実に処分しておいてください。
このようなトラブルを回避するために使用しているバックアップソフトでデータを完全消去し、確実にデータを処分することを強くおすすめします。データの消去についての詳細はバックアップソフトの取扱説明書をご参照ください。
なお、データの処分をしないまま譲渡(または売却)し、大切なデータが漏洩された場合、その責任は負いかねます。

消耗品・装置の廃棄について

本装置、およびカートリッジの廃棄については各自治体の廃棄ルールに従ってください。詳しくは、各自治体へお問い合わせください。

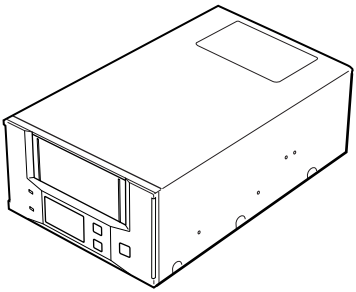
装置寿命について

本装置の装置寿命は5年です。

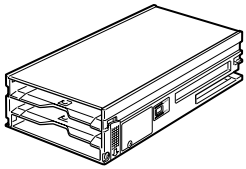
箱の中身について

内蔵DAT集合型の梱包箱の中には、内蔵DAT集合型本体以外にいろいろな付属品が入っています。下図を参照してすべてがそろっていることを確認し、それぞれ点検してください。万一足りないものや損傷しているものがある場合は、販売店に連絡してください。

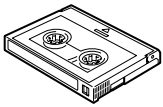
□ 内蔵DAT集合型



□ マガジン

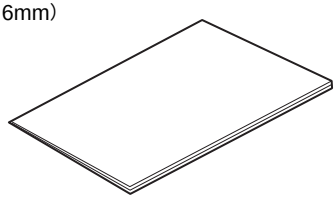


□ クリーニングカートリッジ



□ ネジ
（4本、M3/長さ 6mm）

□ 取扱説明書（本書）



重要

梱包箱や箱の中に入っていた固定用部材は、本装置を取り外して輸送する際に必要となります。大切に保管しておいてください。

目　次

商標について 2

⚠ 使用上のご注意
～必ずお読みください～

安全にかかわる表示について 3
本書および警告ラベルで使用する記号とその内容 ... 4
安全上のご注意 5
正しく動作させるために 10
　本体について 10
　マガジンについて 11
はじめに 13
本書について 14
　はじめて取り扱うときの読み方 14
　本文中の記号について 15
その他 15
　第三者への譲渡について 15
　消耗品・装置の廃棄について 15
　装置寿命について 15
箱の中身について 16

内蔵DAT集合型について

使用できるカートリッジ 19
各部の名称と機能 20
　装置前面 20
　装置背面 21
　装置底面 21
　マガジン 21
セットアップ 22
　内蔵DAT集合型の設定
　　～ジャンパピンを使った設定～ 22
　内蔵DAT集合型の設定
　　～DIPスイッチを使った設定～ 24
　基本処理装置への取り付け 25
取り扱い 29
　カートリッジのセット 29
　カートリッジの取り出し 31
　マガジンのセット 33
　カートリッジの選択 34
　マガジンの取り出し 35

データのリード／ライト 35
液晶ディスプレイ 35
LED表示 37
設定の変更 38
メニュー画面への切替方法と操作方法 38
Version　～設定状態の表示～ 39
Auto Load ～Auto Loadの設定～ 39
Unload ～Unloadの設定～ 40
Contrast　～明るさの調整～ 40
Orientation　～表示の向きの設定～ 41
DR Mode　～DR Mode の設定～ 42
Language　～表示言語の設定～ 43
クリーニング 44
リード／ライトヘッドのクリーニング 44
本体のクリーニング 45

DDSデータカートリッジについて

データカートリッジの各部の名称 46
使用・保管・運搬条件 47
ラベル 47
ラベル貼り付け位置 47
ラベルへの記入上の注意事項 48
ライトプロテクト 48
取り扱い上の注意事項 49
使用上のご注意 49
一般的注意事項 50
使用禁止基準 50
寿命 51
重要なデータの保存について 51
データの3世代管理について 52
データカートリッジの保管について 52
仕　様 53
消耗品 54
エラーメッセージ一覧 55
運用状況お客様記入シート 57
トラブルシューティング チェックリスト 58

内蔵DAT集合型について

本装置のセットアップから取り付け、日常の取り扱い方法について説明します。

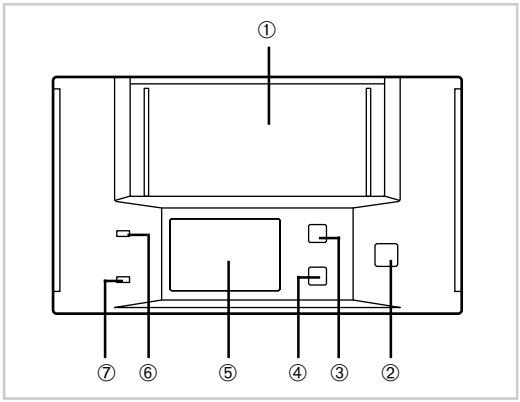
使用できるカートリッジ

本装置には、DDSデータカートリッジをご使用ください。DDSデータカートリッジ以外のデータカートリッジを使用するとリード／ライトエラーの原因となる場合があります。

各部の名称と機能

本装置、およびマガジンの各部の名称と機能について説明します。

装置前面



① **マガジン挿入口**

マガジンをセットするスロット(→33ページ)。

② EJECT**ボタン**

マガジンを本装置から取り出すときに押す(→35ページ)。

③ SELECT**ボタン**

マガジンに搭載されている8巻のDDSデータカートリッジの中からどのDDSデータカートリッジを使用するかを選択するときに押す(→34ページ)。

液晶ディスプレイを使ったメニューを操作するときにも使用する(→38ページ)。

④ ENTER**ボタン**

SELECTボタンで選択したDDSデータカートリッジを本装置内のリード/ライトドライブにセットするときに押す(→34ページ)。

液晶ディスプレイを使ったメニューを操作するときにも使用する(→38ページ)。

⑤ **液晶ディスプレイ**

本装置や搭載しているDDSデータカートリッジの状態を示すインジケータ(→35ページ)。

液晶ディスプレイを使ったメニューを操作するときにも使用する(→38ページ)。

本装置にエラーが起きたときはエラーメッセージを表示する(→55ページ)。

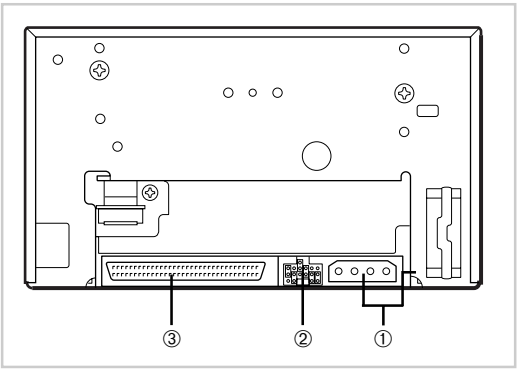
⑥ BUSY LED

データの通信状態を示すLED(→37ページ)。

⑦ TAPE LED

DDSデータカートリッジの状態を示すLED(→37ページ)。

装置背面



① **電源コネクタ**

電源中継ケーブルを接続するためのコネクタ(→27ページ)。

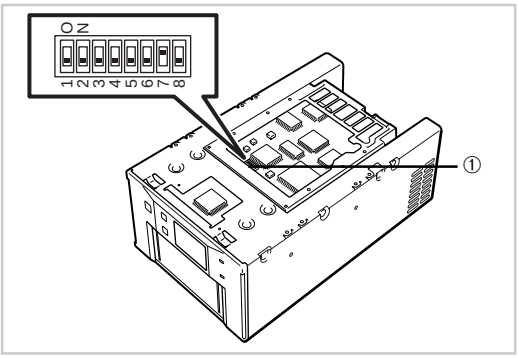
② **ジャンパピン**

内蔵DAT集合型の設定をするピン(→22ページ)。

③ **SCSIコネクタ**

本体の内蔵SCSIケーブルを接続する(→27ページ)。

装置底面

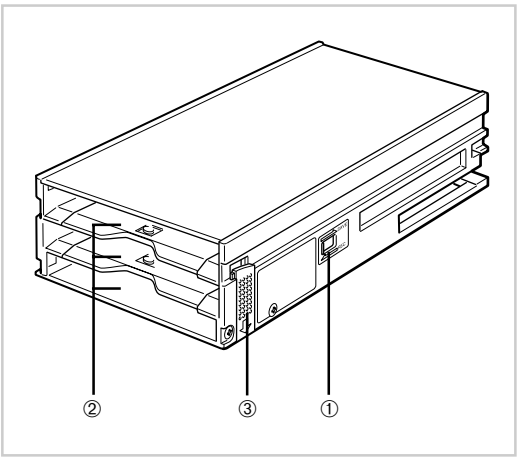


① **DIPスイッチ**

内蔵DAT集合型の設定をするスイッチ(→24ページ)。

※ 本スイッチは変更しないでご使用ください。

マガジン



① **ライトプロテクトプラグ**

セットしたDDSデータカートリッジへの書き込みを禁止／許可するスイッチ(→33ページ)。

② **データカートリッジ挿入口**

DDSデータカートリッジを挿入するスロット(→29ページ)。

③ **リリーススイッチ**

DDSデータカートリッジを取り出すときに押すスイッチ(→31ページ)。

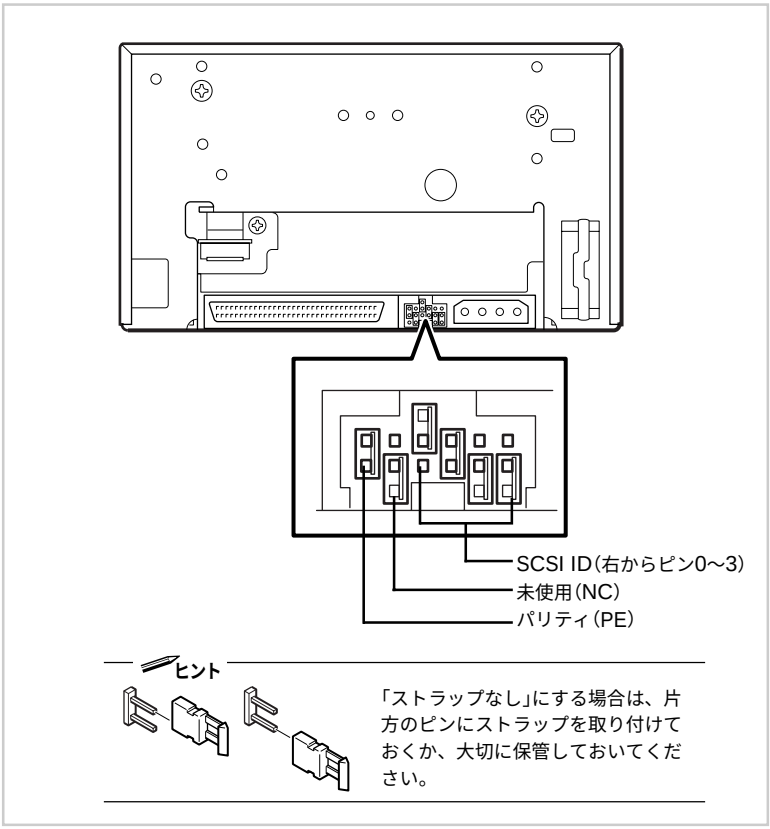
セットアップ

本装置を「基本処理装置」に取り付けるまでの手順を説明します。

内蔵DAT集合型の設定　～ジャンパピンを使った設定～

本装置の背面にあるジャンパピンでは次の設定を変更することができます。

- SCSI ID（工場出荷時の設定は「ID4」）
- パリティ機能（工場出荷時の設定は「有効」）

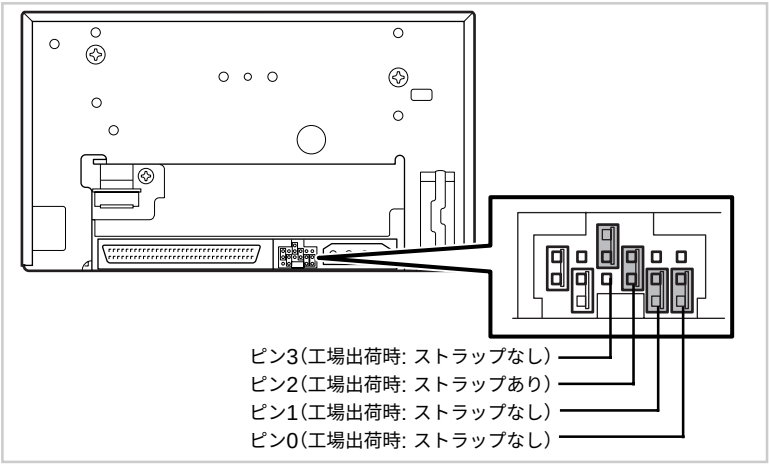


ヒント

ここでの「ストラップあり」とは、2つのピンにストラップを取り付けた状態をさします。また、「ストラップなし」はストラップをピンに取り付けていないか、2つのピンのうち、どちらか一方のピンにのみ取り付けられている状態をさします。

SCSI IDの設定

本装置が使用するSCSI IDを設定します。設定は背面にあるジャンパピンの「ピン0」～「ピン3」の4本のピンを使います。



重要

他のSCSI機器とSCSI IDが重複していないことを確認してください。

SCSI ID	ピン3	ピン2	ピン1	ピン0
0	×	×	×	×
1	×	×	×	○
2	×	×	○	×
3	×	×	○	○
4*1	×	○	×	×
5	×	○	×	○
6	×	○	○	×
7*2	×	○	○	○
8	○	×	×	×
9	○	×	×	○
10	○	×	○	×
11	○	×	○	○
12	○	○	×	×
13	○	○	×	○
14	○	○	○	×
15	○	○	○	○

○ ストラップあり

× ストラップなし

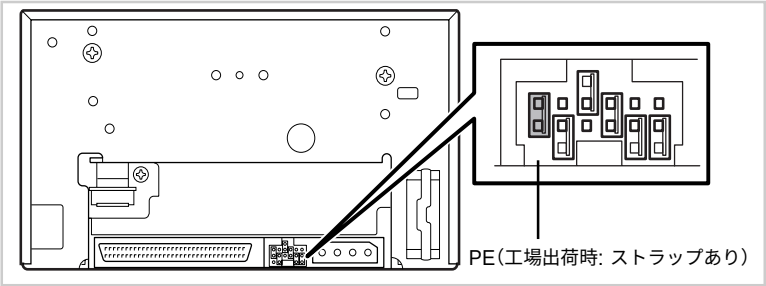
*1 出荷時の設定。

*2 SCSI IDをID7に設定しないでください。

パリティ機能の設定

パリティ機能の設定を設定します。設定は背面にあるジャンパピンの一番左側のピンを使います。

ストラップありにすると、パリティ機能は「有効」になります（工場出荷時の設定）。ストラップなしにするとパリティ機能は「無効」になります。



重要

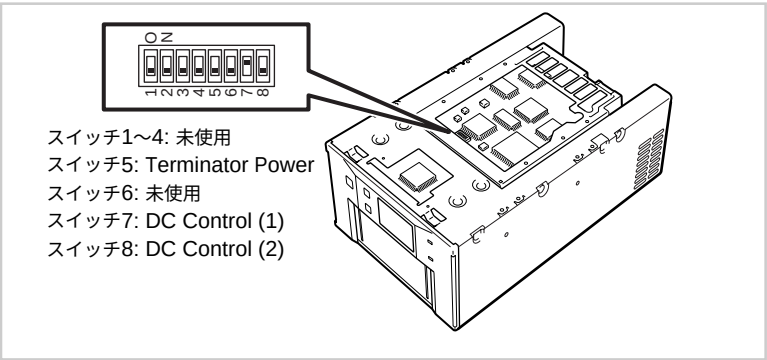
信頼性を向上させるために、「有効（ストラップあり）」まで使用してください。

内蔵DAT集合型の設定　～DIPスイッチを使った設定～

本装置の底面にあるDIPスイッチでは次の設定を行っています。

※本スイッチは変更しないでご使用ください。

- Terminator Power（ターミネータ電源供給）（工場出荷時の設定は「OFF」）



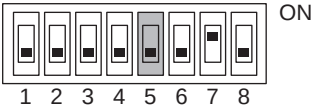
- DC Control (1)（データ圧縮設定）（工場出荷時の設定は「ON」）
- DC Control (2)（データ圧縮設定）（工場出荷時の設定は「OFF」）

重要

工場出荷時設定のままで使用してください。

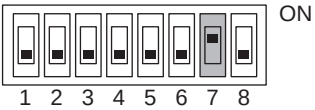
ターミネータ電源供給の設定　～Terminator Power～

ターミネータ電源をSCSIバスに供給するか供給しないかを設定します。
設定はスイッチ5を使います。「ON」でターミネータ電源を供給する設定に、「OFF（工場出荷時設定）」で供給しない設定になります。



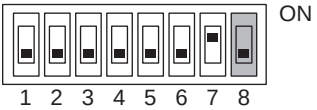
データ圧縮の設定　～DC Control (1)～

本装置が持つデータ圧縮機能を有効にするか無効にするかを設定します。
設定はスイッチ7を使います。「ON（工場出荷時の設定）」でデータ圧縮機能を有効にする設定に、「OFF」でデータ圧縮機能を無効にする設定になります。



データ圧縮の設定　～DC Control (2)～

バックアップソフトからデータ圧縮の制御を有効にするか無効にするかを設定します。
設定はスイッチ8を使います。「ON」でバックアップソフトからのデータ圧縮制御を無効にする設定に、「OFF（工場出荷時の設定）」でバックアップソフトからのデータ圧縮制御を有効にする設定になります。



基本処理装置への取り付け

⚠ 注意

本装置を取り付ける前に、必ずサーバ／ワークステーション等基本処理装置の電源プラグをコンセントから引き抜いてください。コンセントに差し込んだまま作業を行うと、感電するおそれがあります。

本装置を基本処理装置へ取り付けます。
以下の取り付け手順は一例です。実際の取り付けかたは基本処理装置によってことなりますので、基本処理装置の取扱説明書を参照してください。

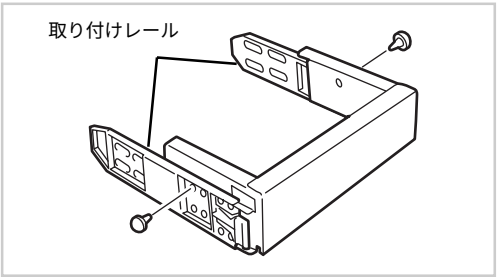
1. 基本処理装置の電源をOFFにして、電源コードをコンセントから抜く。

2. 基本処理装置のカバーを取り外す。

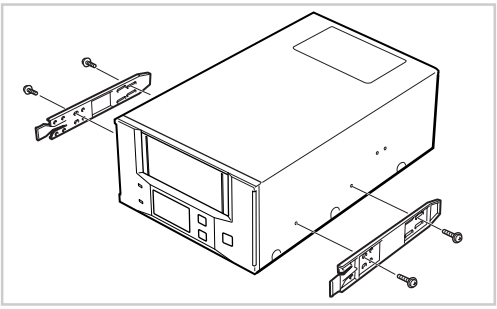
3. 基本処理装置の5.25インチデバイスベイのカバーを取り外す。

4. 基本処理装置の5.25インチデバイスベイの取り付けレールを取り外す。
(取り付けレールを使用しない、もしくは片側のみ使用する基本処理装置もあります。その場合の取り付け方法は基本処理装置の取扱説明書を参照下さい。)

基本処理装置側の取り付けレールの例(基本処理装置によって取り付けレールが図と異なる場合があります。)

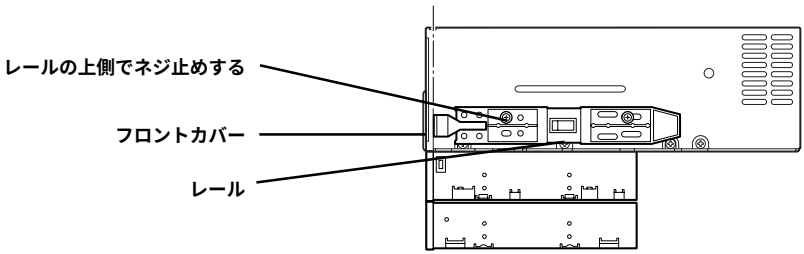


5. 本装置に4.で取り外した取り付けレールを取り付ける。

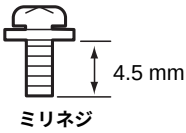


重要

- レールを使用する場合には、フロントカバーの面と本体標準設備のCD-ROMドライブなどのフロントカバーが平行になるようにレールの取り付け位置を調節してください。



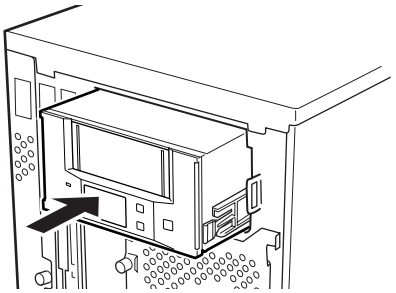
- 必ず本装置に添付されているネジを使って固定してください。本装置に添付のネジは、ミリネジ(長さ6.0 mm 、ワッシャより下の長さ4.5 mm)です。添付のネジより長いものを使用すると装置の故障の原因となります。



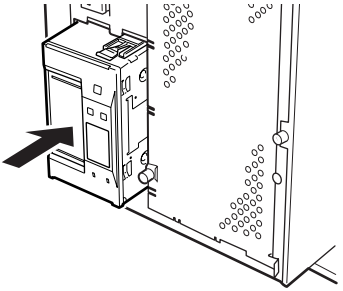
6. 本装置を基本処理装置の5.25インチデバイスベイのスロットに差し込む。

「カチッ」という音がして、ロックされます。

<横置きに取り付ける場合>



<縦置きに取り付ける場合>

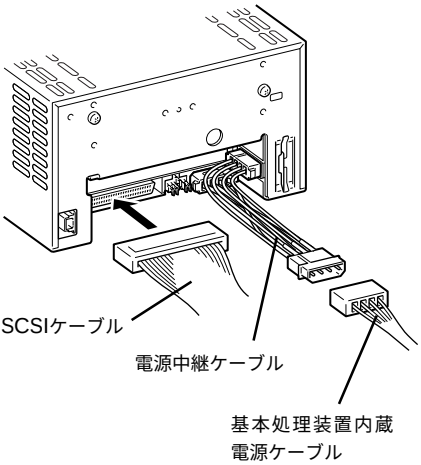


7. ケーブルを接続する。

電源中継ケーブルのコネクタを基本処理装置の電源ケーブルのコネクタに接続します。

重要

- 本装置には、ターミネータ機能はありません。本装置がSCSI接続の最遠端になる場合は、SCSIケーブルの末端にターミネータを取り付けてください。
- 電源中継ケーブルの取り扱い時は以下の点に注意してください。
  - 挿抜をする時は、ケーブル部を持たずに必ずコネクタ部を持って行ってください。
  - 根元部分に曲げ等による無理な力が掛からないよう取り付けてください。



8. 基本処理装置にカバーを取り付けて、電源コードをコンセントに接続する。

9. 基本処理装置の電源をONにする。

10. SCSIバスの設定が基本処理装置側でできる場合は、本装置について以下のように設定してください。

    - 転送レート: 40Mバイト／秒(最大、同期)
    - データバス幅: 16ビット(Ultra Wide SCSI､LVD/SE)
    - DISCONNECT/RECONNECT機能: 有効

    詳しくは、基本処理装置に添付の説明書を参照してください。

ヒント

本装置の液晶ディスプレイは基本処理装置への取り付け向きに合わせて表示方向を切り替えることができます(41ページ参照)。

重要

同一バス上に接続されているデバイス数およびSCSIケーブル長により、下記の通り最大転送レートを設定してください。

SCSI	**最大転送レート** (M**バイト**/s)	**データバス幅** (bit)	**最大ケーブル長**(m) Single-ended (LVD*)	**最大デバイス数** (SCSI**ホスト**+ **デバイス数**)
Ultra Wide SCSI	40	16	3 (-)	4
Ultra Wide SCSI	40	16	1.5 (-)	8
Ultra Wide SCSI	40	16	- (3)	16
Fast Wide SCSI	20	16	3 (3)	16
Wide SCSI	10	16	6 (3)	8

*SCSIホストおよび同一バス上の全デバイスがLVD対応の場合

取り扱い

本装置の取り扱い方法を説明します。

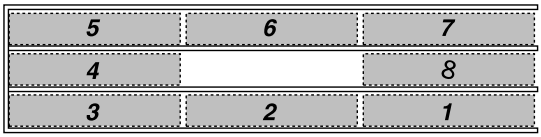
カートリッジのセット

カートリッジを添付のマガジンにセットします。

重要

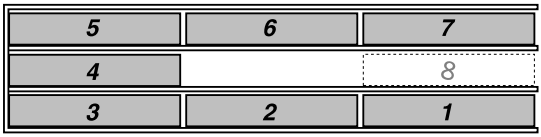
- マガジンには最高8巻までカートリッジをセットすることができます。
- マガジン内にセットされたカートリッジのカートリッジ番号は次のように決められています。セットする順番を間違えないように注意してください。
- カートリッジのマガジンへのセットは、下記の３パターン(①～③)しかできません。下記以外のセットを行なったマガジンを本装置にセットしても排出されます。

①



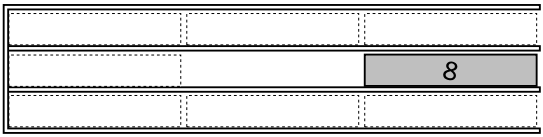
(8巻のカートリッジをセットした場合)

②



(7巻のカートリッジをセットした場合)

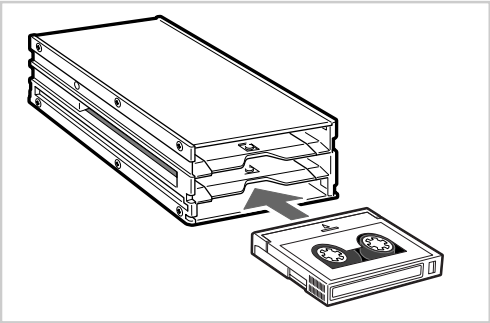
③



(1巻のカートリッジをセットした場合)

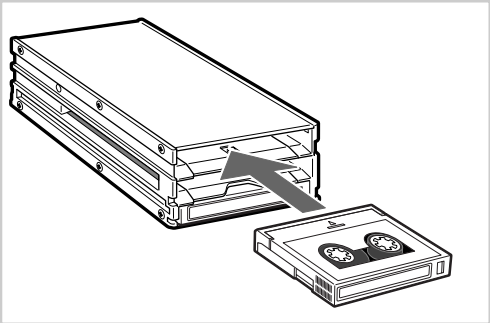
1. マガジンの下段のスロットにカートリッジを挿入する。

   マガジンの下段のスロットにカートリッジを挿入します。最初に3番のカートリッジを挿入し、次に2番を挿入し、最後に1番のカートリッジを挿入します。



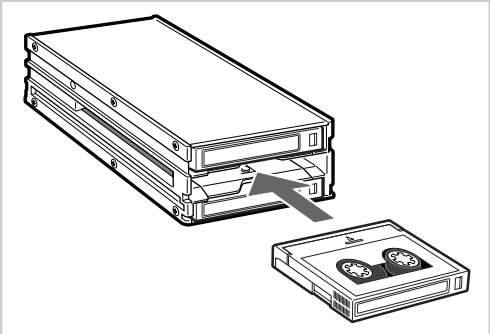
2. マガジンの上段のスロットにカートリッジを挿入する。

   マガジンの上段のスロットにカートリッジを挿入します。最初に4番のカートリッジを挿入し、次に5番を挿入し、次に6番を挿入し、最後に7番のカートリッジを挿入します。



3. マガジンの中段のスロットにカートリッジを挿入する。

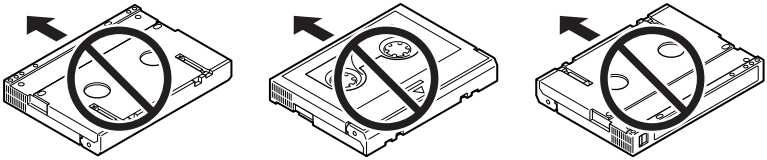
   マガジンの中段のスロットにカートリッジ(1個)を挿入します。



重要

- カートリッジは正しい向きで挿入してください。

  <悪い例>



重要

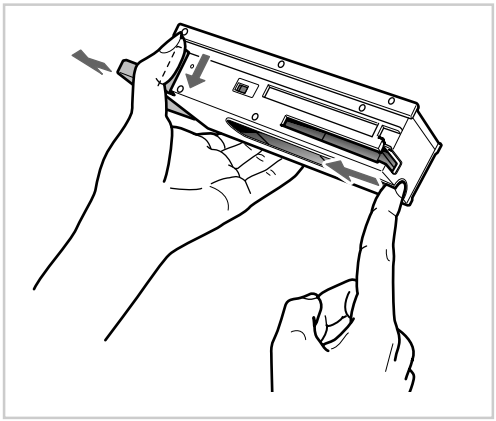
- 取り付け後、マガジンの挿入口を逆さにしてもDDSデータカートリッジが落ちてこないことを確認してください。
- マガジンの挿入口からカートリッジが飛び出していないことを確認してください。

カートリッジの取り出し

マガジンにセットしたカートリッジは次の手順に従って取り出してください。

1. マガジンのリリーススイッチ(21ページ参照)を押しながらマガジン後部の穴に指を入れ、カートリッジを前方に押し出す。

   1巻目のカートリッジが挿入口から少し飛び出しますので、カートリッジの両端を持って、マガジンから取り出します。

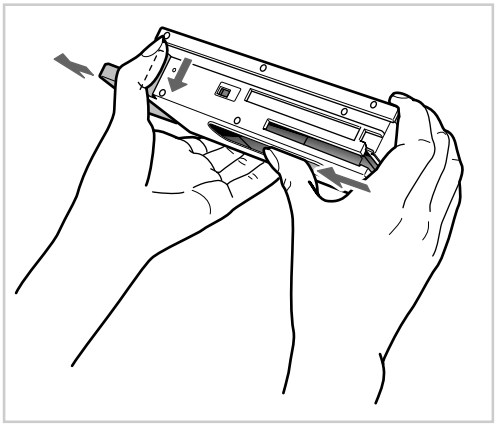


重要

マガジンの挿入口を下に向けて取り出しをしないでください。カートリッジを落として破損するおそれがあります。

2. マガジンの底のスロット部分に親指を置き、カートリッジを押しながら前方にスライドさせる。

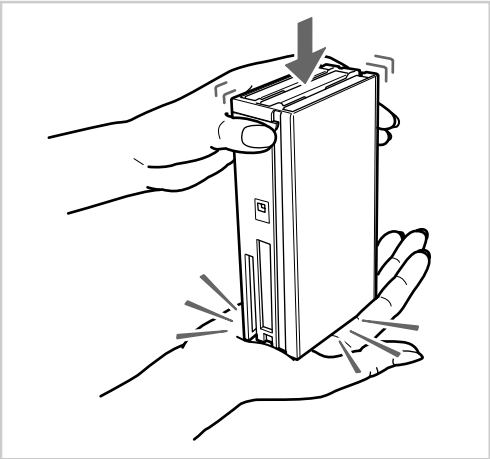
   次のカートリッジが挿入口から少し飛び出しますので、カートリッジの両端を持って、マガジンから取り出します。



3. 手順１と２を繰り返して5巻のカートリッジを取り出す。

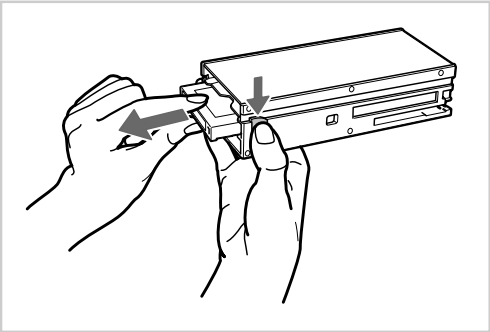
4. マガジンの開口部を上にして、反対側を手のひら(又は柔らかい物)に軽く当てる。

   上段のカートリッジが下段に移動します。



5. 手順1と2を繰り返してマガジンの下段からカートリッジを取り出す。

6. 最後に、中段からカートリッジを取り出す。

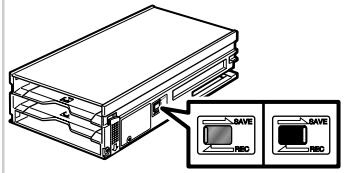


マガジンのセット

カートリッジ(最高8巻)をセットしたマガジンを本装置にセットします。
ある程度挿入するとマガジンは自動的に本装置内部にセットされ、TAPE LEDが点灯します。

重要

- マガジンを挿入すると次のように動作します。
  - 液晶ディスプレイにMagazine Loadingの表示が出たあと、マガジンのチェック機能がスタートします。
  - マガジンが書き込み禁止になっている場合は、液晶ディスプレイに書き込み禁止インジケータ(WP)が点灯します。
  - 全てのカートリッジがチェックされます。
  - 現在チェック中のカートリッジの番号が点滅します。



ライトプロテクトプラグ(タブを「SAVE」の方向に移動すると書き込み禁止になる)

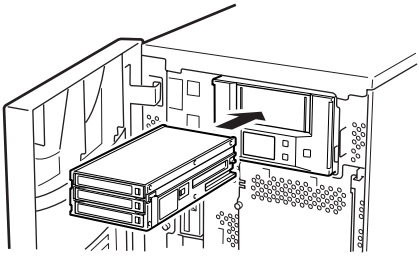
- Auto load機能がONの場合は、マガジン内のカートリッジのチェック作業が全て終了すると、1巻目のカートリッジが自動的にロードされます。

WPが点灯

1. 基本処理装置の電源をONにした後、本装置のBUSY LEDとTAPE LEDが消灯したことを確認する。

2. ロードするカートリッジを選択する。

   すべてのカートリッジの番号が画面に表示されると、ロードするカートリッジの選択をご使用のコンピューターのソフトウェアまたは、本体のSELECT,ENTERボタンで選択できる状態となります。カートリッジがDDSドライブにロードされると、TAPE LEDが点灯します。



3. テープのデータが読み込まれる。

   DDSドライブにロードされたカートリッジのデータが読み込まれます(または、書き込まれます)。この作業中は、BUSY LEDが点灯します。

カートリッジの選択

コンピューターにインストールされているソフトウェアを使用して、マガジンにセットされているカートリッジを選ぶことができます。
また、本装置のSELECTボタンとENTERボタンを使用してカートリッジを選ぶこともできます。手順は次のとおりになります。

1. SELECTボタンを押す。

   液晶ディスプレイにカートリッジの番号が表示されます。SELECTボタンを繰り返し押して、使用するカートリッジの番号を液晶ディスプレイに表示させます。

2. 使用するカートリッジの番号を確認してから、ENTERボタンを押す。

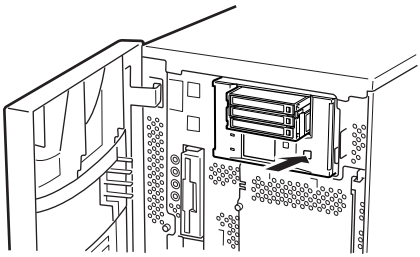
   リード/ライトドライブにセットされているカートリッジがマガジンに戻され、選択したカートリッジがセットされます。

重要

- マガジンを挿入したあと、カートリッジのチェック作業に約90秒かかります。この間は、SELECTボタンは使用することができません。また、SELECTボタンはReady LEDが消えているときも使用することができません。
- Auto load機能がONの場合は、マガジン内のカートリッジのチェック作業が全て終了すると、最初のカートリッジが自動的にリード/ライトドライブにセットされます。
- BUSY LEDが点滅中は、SELECTボタンとENTERボタンは使用することができません。

マガジンの取り出し

マガジンを本装置から取り出すには、EJECTボタンを押してください。液晶ディスプレイに「Ejecting Magazine」と表示され、本装置内部のリード/ライトドライブにセットされていたカートリッジがマガジンに戻されてから、自動的にマガジンが本装置から排出されます。マガジンが排出されるまでに最大約2分かかります。



重要

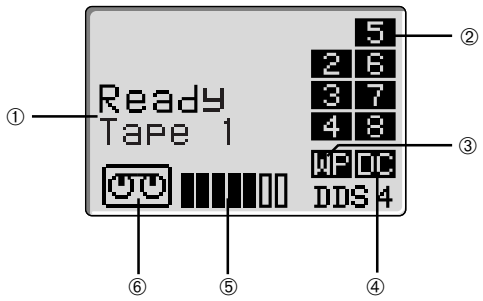
BUSY LEDが点滅中はEJECTボタンを使用することができません。

データのリード／ライト

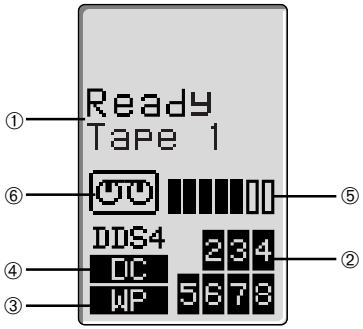
カートリッジからのデータの読み込み(リード)、または書き込み(ライト)の方法や書き込むデータの圧縮方法については、ソフトウェアに添付の説明書を参照してください。

液晶ディスプレイ

本装置前面にある液晶ディスプレイで本装置やDDSデータカートリッジの状態を確認できます。(下図に示すように本装置の取り付けた向きに合わせて液晶ディスプレイの表示方向を切り替えることもできます。詳しくは、41ページを参照してください。)



横置き表示



縦置き表示

① **メッセージエリア**

本装置の状態を表示します。また、状況に応じて警告メッセージやエラーメッセージ(55ページ参照)が表示されます。

表示されるメッセージの言語を英語、フランス語、ドイツ語、スペイン語のいずれかに変更することができます(43ページ参照)。

② **カートリッジ番号インジケータ**

マガジンにセットされているDDSカートリッジの状態を表示します。カートリッジの交換中は、該当するカートリッジ番号が点滅します。マガジンから本装置内のリード/ライトドライブにカートリッジがセットされると、該当するカートリッジの番号が消灯します。カートリッジがマガジンに戻されると再び点灯します。

③ **ライトプロテクトインジケータ**

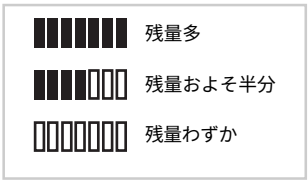
DDSカートリッジ、またはマガジンが書き込み禁止になっているときに点灯します。書き込み禁止にするには、DDSカートリッジ、またはマガジンのライトプロテクトタブを使います。

④ **データ圧縮インジケータ**

本装置がデータ圧縮機能を使うことができるとき、またはデータ圧縮モードで動作中のときに点灯します。

⑤ **テープポジションインジケータ**

リード/ライトドライブにセットされているDDSデータカートリッジの残量の目安を表示します。



⑥ **カートリッジインジケータ**

DDSカートリッジがリード/ライトドライブにセットされると点灯し、テープの走行状態を示します。
DDSカートリッジがリード/ライトドライブから出し入れされている間は点滅します。

LED表示

本装置前面にある2つのLEDは本装置やDDSデータカートリッジの状態を知らせます。

BUSY LED(**緑色**)

SCSIインタフェースが有効になっているときに点灯します。リード/ライトドライブにセットされているDDSカートリッジのデータの読み取り中や書き込み中、サーチやテープの巻き戻し中は点滅します。

TAPE LED(**緑色**)

DDSカートリッジがリード/ライトドライブにセットされると点灯します。DDSカートリッジがリード/ライトドライブから出し入れされている間は点滅します。

設定の変更

本装置前面にある液晶ディスプレイの表示をメニュー画面に切り替えることで、本装置のさまざまな設定を変更することができます。また、本装置の内部プログラム(ファームウェア)のバージョンや設定しているSCSI IDなどの確認もできます。

メニュー画面への切替方法と操作方法

次の手順でメニュー画面を表示させます。

ヒント

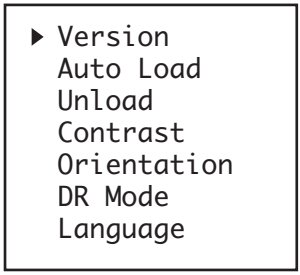
メニュー画面に切り替えるときは、本装置からマガジンを取り出しておくことをお勧めします。マガジンをセットされている場合は、液晶ディスプレイに「Ready」と表示されているときのみメニュー画面を表示させ、設定を変更したり、確認したりすることができます。ただし、「Language(言語)」の設定を変更するときは、マガジンを取り出しておく必要があります。

1. 基本処理装置の電源がONになっていることを確認する。
2. SELECTボタンを5秒間押し続ける。

   液晶ディスプレイの表示がメニュー画面に切り替わります。
3. SELECTボタンを押して、目的の項目にカーソル(▶)を合わせる。
4. ENTERボタンを押す。

   選択した項目のサブメニューが表示されます。
5. 設定を変更する。

   それぞれの画面での操作や機能については、この後の説明を参照してください。



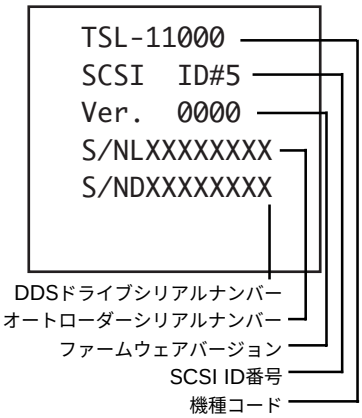
ヒント

10秒間何もしないでいると、通常の画面に表示が戻ります。

Version ～設定状態の表示～

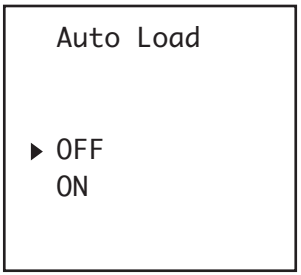
メニュー画面から「Version」を選択すると、右に示すサブメニューが表示されます。
この画面では、本装置の機種コード、設定しているSCSI ID番号、ファームウェアのバージョンが確認できます。

表示されている内容を確認後、EJECTボタンを押してください。メニュー画面に戻ります。



Auto Load ～Auto Loadの設定～

メニュー画面から「Auto Load」を選択すると、右に示すサブメニューが表示されます。
この画面では、マガジンの挿入後、1巻目のカートリッジの動作を指定します。



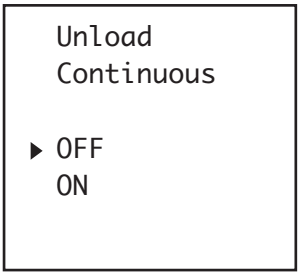
OFF: マガジン内のカートリッジのチェックのみで終了します。（出荷時設定）
通常はこのモードで使用してください。
ON: マガジン内のカートリッジのチェック後、1巻目のカートリッジがリード／ライトドライブに自動的に挿入されます。

1. SELECTボタンを押して、選択する項目にカーソル(▶)を合わせます。
選択を無効にしてメニュー画面に戻るには、EJECTボタンを押します。

2. ENTERボタンを押します。
設定が確定してメニュー画面に戻ります。

Unload ～Unloadの設定～

メニュー画面から「Unload」を選択すると、右に示すサブメニューが表示されます。
この画面では、リード／ライトドライブ内に最後のカートリッジの処理が終わったあとカートリッジの動作を指定します。



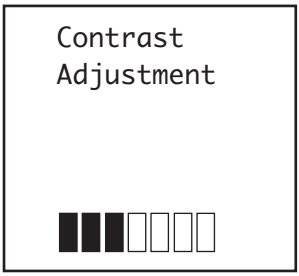
OFF: カートリッジはマガジンに戻され、コマンドが終了します。（出荷時設定）
通常はこのモードで使用してください。
ON: カートリッジはマガジンに戻され、1巻目のカートリッジがドライブに挿入されます。

1. SELECTボタンを押して、選択する項目にカーソル（▶）を合わせます。
選択を無効にしてメニュー画面に戻るには、EJECTボタンを押します。

2. ENTERボタンを押します。
設定が確定してメニュー画面に戻ります。

Contrast ～明るさの調整～

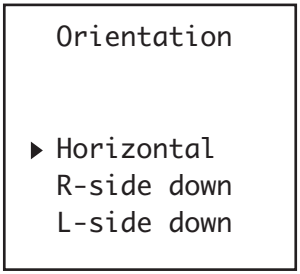
メニュー画面から「Contrast」を選択すると、右に示すサブメニューが表示されます。
この画面では、液晶ディスプレイの明るさ（コントラスト）を調整することができます。



SELECTボタンを押すたびにインジケータの黒色が増えていき、画面が明るくなります。7つのインジケータがすべて黒になった状態でもう一度押すと、すべて白に切り替わります（一番暗い設定に戻ります）。
調整後、EJECTボタンを押してください。現在の設定を記憶してからメニュー画面に戻ります。

Orientation　～表示の向きの設定～

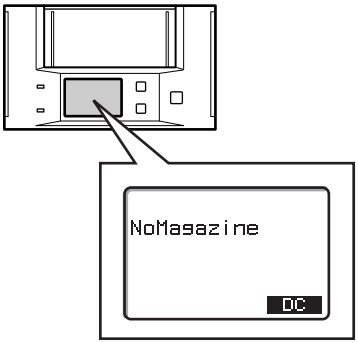
メニュー画面から「Orientation」を選択すると、右に示すサブメニューが表示されます。
この画面では、本装置の取り付け方向に合わせて液晶ディスプレイの表示方向を設定することができます。



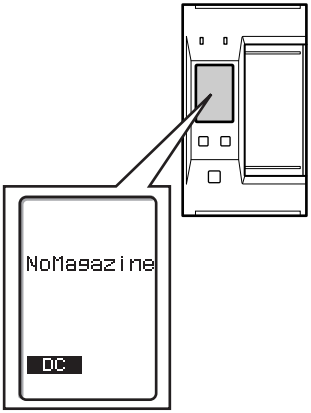
ヒント

メニュー画面で設定しているときは、常に本装置上面が上になる方向に表示されます。

「Horizontal」は、本装置を横置きに取り付けた場合に設定します。



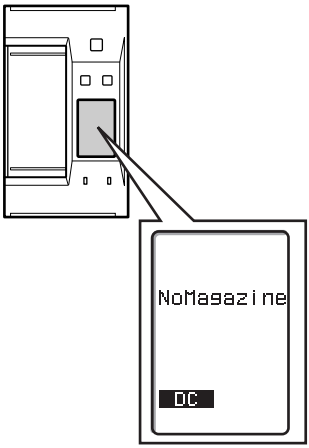
「R-side down」は、本装置の右側面を下にして縦置きに取り付けた場合に設定します。



「L-side down」は、本装置の左側面を下にして縦置きに取り付けた場合に設定します。

SELECTボタンを押して、目的の項目にカーソル(▶)を合わせてください。選択を無効にしてメニュー画面に戻るには、EJECTボタンを押してください。

選択後、ENTERボタンを押すと、設定内容が保存され、メニュー画面に戻ります。
表示方向はメニュー画面から通常の画面に切り替わったときに有効になります。



DR Mode ～DR Mode の設定～

メニュー画面から「DR Mode」を選択すると、右に示すサブメニューが表示されます。

```
DR Mode

OFF
ON
```

OFF: DR Mode 設定無効
ON: DR Mode 設定有効

1. SELECTボタンを押して、選択する項目にカーソル(→)を合わせます。

   選択を無効にしてメニュー画面に戻るには、EJECTボタンを押します。

2. ENTERボタンを押します。

   画面は右のように表示されます。

```
Power
Cycle
To Enter
DR Mode
```

3. 電源をON/OFFさせて、再起動します。

4. 再起動後、LCDの4段目に"DR Mode"と表示されていれば、DR Modeの設定が有効になります。

重要

select/enterボタンを使い、DRメディアをDriveに挿入してください。再起動時に、DRメディアがDriveに挿入されていることを確認してください。

Language　～表示言語の設定～

重要

「Language」の設定を変更する前にマガジンを本装置から取り出してください。マガジンがセットされているときは、「Language」の設定は変更できません。

メニュー画面から「Language」を選択すると、右に示すサブメニューが表示されます。
この画面では、液晶ディスプレイに表示されるメッセージの言語を設定することができます。

```
  Orientation

▶ English
  French
  German
  Spanish
```

言語は「English（英語）」、「French（フランス語）」、「German（ドイツ語）」、「Spanish（スペイン語）」の中から選択できます。
SELECTボタンを押して、目的の言語にカーソル（▶）を合わせてください。選択を無効にしてメニュー画面に戻るには、EJECTボタンを押してください。

選択後、ENTERボタンを押すと、設定内容が保存され、メニュー画面に戻ります。

ヒント

メニュー画面では、常に英語で表示されます。

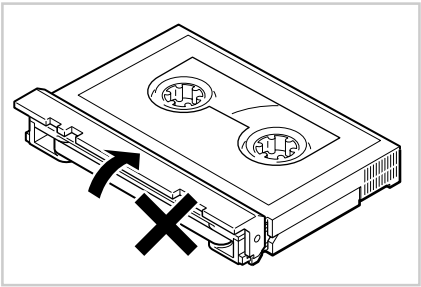
クリーニング

リード／ライトヘッドのクリーニング

本装置を常にベストな状態に保つために、定期的にクリーニングをしてください。
液晶ディスプレイのメッセージエリアに「CleanReq」というメッセージが表示されたら、マガジンにクリーニングカートリッジをセットして本装置内部のリード/ライトヘッドを清掃してください。
クリーニングカートリッジをセットする位置は、どの番号でもかまいません。（29ページ参照）

重要

- 本装置のクリーニングには、付属のクリーニングカートリッジもしくは、「4mmクリーニングカートリッジ（DDS）」を使用してください。 それ以外のクリーナーを使用すると故障の原因となることがあります。
- クリーニングカートリッジのテープ面を手で触ったり、テープを巻き戻して使用したりしないでください。
- クリーニングカートリッジは約50回使用することができます。クリーニング中にSTATUS LEDが点滅（等間隔）したときは、クリーニングカートリッジのテープが終わりまできたことを示します（クリーニングカートリッジを取り出して右側のリールにテープがすべて巻き取られていることもあわせて確認してください）。新しいクリーニングカートリッジを別途お買い求めください。



クリーニング方法

● 番号8にクリーニングカートリッジをセットした場合

1. クリーニングカートリッジをセットしたマガジンを本装置に挿入します。

2. SELECTボタンを使用し数字の8を選びます。

3. 画面にSelect8と表示される。

   Select8と表示されたら、ENTERボタンを押します。クリーニングカートリッジがリード/ライトドライブにセットされ、ヘッドのクリーニングがスタートします。クリーニングが終了するとクリーニングカートリッジが自動的にマガジンに戻り、マガジンが本装置から自動的に排出されます。

ヒント

バックアップソフト上からクリーニングを行った場合にはマガジンは自動的に排出されません。

● 番号8以外にクリーニングカートリッジをセットした場合

1. クリーニングカートリッジをセットしたマガジンを本装置に挿入します。

2. SELECTボタンを使用しクリーニングカートリッジをセットした番号を選びます。

3. 画面に選択した番号が表示される。

   Select番号が表示されたら、ENTERボタンを押します。クリーニングカートリッジがリード/ライトドライブにセットされ、ヘッドのクリーニングがスタートします。クリーニングが終了するとクリーニングカートリッジが自動的にマガジンに戻ります。（番号8以外にセットした場合にはマガジンは自動的に排出されません。）

本体のクリーニング

本装置の外観が汚れたときは、やわらかい布に水または洗剤を含ませて軽く拭いてください。
マガジンの汚れは、乾いた柔らかい布で軽く拭いてください。

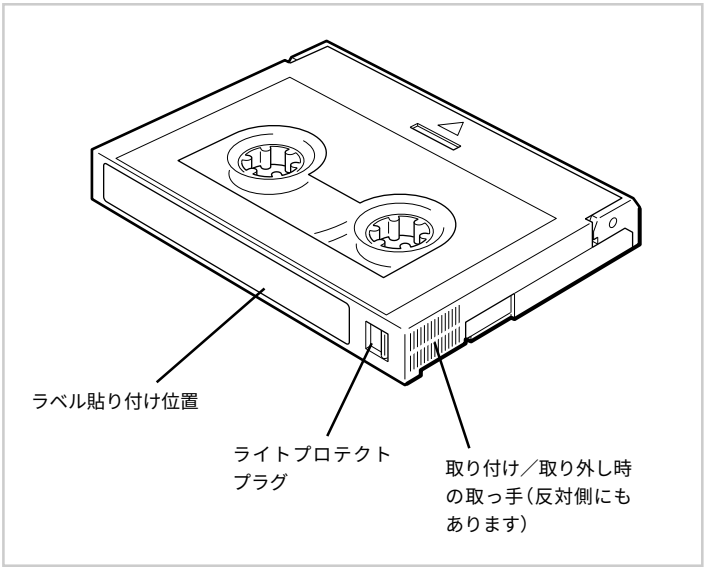
重要

ベンジン、シンナーなど（揮発性のもの）の薬品で拭くと、変形や変色の原因となることがあります。また、殺虫剤をかけた場合も変形や変色の原因となることがあります。薬品が付着したら、早めに水を含ませた柔らかい布で拭き取ってください。

DDSデータカートリッジについて

DDSデータカートリッジの取り扱い方法について説明します。

データカートリッジの各部の名称



使用・保管・運搬条件

■ **使用条件**

温度	10～35℃
湿度	20～80%（ただし、湿球の最高温度は26℃とします。）
放置時間	使用および保管環境条件以外の環境にDDSデータカートリッジがさらされていた場合には、使用および保管環境条件以外の環境にさらされていた時間より長く（最大8時間）使用環境になじませてから使用してください。温度勾配は10℃／時間とします。

■ **保管条件**

温度	5～32℃
湿度	20～80%（ただし、湿球の最高温度は26℃とします。）
保管状態	DDSデータカートリッジは、保護ケースに入れて、フタをして保管してください。置き方は水平、垂直どちらでもかまいません。

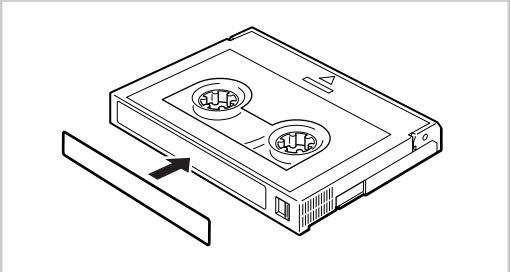
■ **運搬条件**

温度	-30～35℃
湿度	20～80%（ただし、湿球の最高温度は26℃とします。）
温度勾配	10℃／時間
運搬状態	DDSデータカートリッジを保護ケースに収納し、ポリ袋に入れて密閉してください。輸送の場合には、さらに梱包箱に入れてDDSデータカートリッジに力が加わらないように包装してください。

ラベル

どのDDSデータカートリッジにどのデータをバックアップしているかなどがすぐにわかるようにDDSデータカートリッジにラベルを貼り付けておくことをお勧めします。

ラベル貼り付け位置



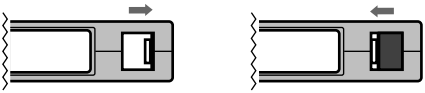
ラベルへの記入上の注意事項

- DDSデータカートリッジの内容を表示するために用いるラベルは簡単に取り換えることができ、取り外した後に粘着物が残らないようなものを使用してください。
- 内容の表示を変更するときは、消しゴムで消さず、必ずラベルを貼り替えてください(INDEXラベルはDDSデータカートリッジに添付されています)。
- ラベルを貼るときは、前項で指定された位置に確実に貼り、さらに取り換える場合は古いラベルを取り除いてから新しいラベルを貼ってください。
- 指定のINDEXラベル以外のものを使用する場合は、大きさが合ったものを使用してください。
- 添付のINDEXラベルには、使用開始年月日を記入できるようになっていますので必ず記入してください。DDSデータカートリッジの寿命をチェックする目安となります。

ライトプロテクト

ライトプロテクトプラグを右図のように設定するとテープの内容が保護されます。

一度書き込んだデータを消去したくないときには、このプラグを右図のように設定してください。またライトプロテクトプラグを左下の図のように設定するとテープに書き込み可能となります。



取り扱い上の注意事項

使用上のご注意

使用する前

- 使用するDDSデータカートリッジが、外的損害を受けていたり、または変形したり、曲がっているときは、使用しないでください。
- 装置の使用温湿度条件以外で保管されていたDDSデータカートリッジを使用する場合は、使用温湿度条件以外にあった時間より長く(最大8時間)、使用環境に持ち込んでから使用してください。保管場所と使用場所の温度差が大きい場合は、一度に持ち込むのではなく、温度変化が1時間に10℃以下になるようにして、DDSデータカートリッジを使用場所の温度になじませてください。

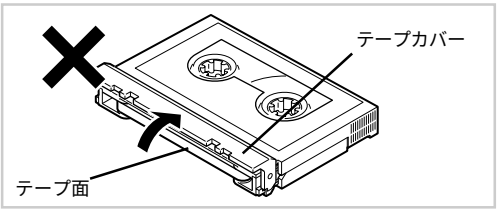
装置への装着

「DDSデータカートリッジのセット」での説明に従ってDDSデータカートリッジをセットしてください。DDSデータカートリッジを取り出した後の保護ケースは、しっかりと閉じ、チリやホコリの少ない場所で保管してください。

使用した後

使用済みのDDSデータカートリッジは、必ず保護ケースに入れてチリやホコリの少ない場所で保管してください。置き方は水平、垂直どちらでもかまいません。

一般的注意事項



- テープに手を触れないでください。また、テープカバーを開閉しないでください。
- 磁気を発生するものを近づけないでください。
- 直射日光や暖房器具の近くには置かないでください。
- 強い衝撃を与えないでください。
- 飲食や喫煙をしながらの取り扱いは避けてください。また、シンナーやアルコールなどを付着させないように注意してください。
- 装置への挿入は、ていねいに行ってください。
- DDSデータカートリッジはゴミやホコリを嫌います。

使用禁止基準

以下の項目に該当する場合は、新しいDDSデータカートリッジに取り替える必要があります。

- 落下させるなど強い衝撃を与え、DDSデータカートリッジが損傷を受けた場合。
- 清涼飲料、コーヒー、紅茶など液体、溶剤や金属粉、たばこの灰などで記録面が汚れている場合。

重要

この状態でDDSデータカートリッジを装置に挿入するとヘッドや装置を損傷したり、汚したりすることになり、装置の故障の原因となります。また、ヘッドの汚れやキズに気づかず、新しいDDSデータカートリッジを装置に挿入すると、DDSデータカートリッジを汚したり、傷つけたりして被害を広げることになります。

寿命

データテープの寿命は、温度・湿度、ヘッドクリーニング回数などによって左右されます。データカートリッジの寿命は使用環境によって異なります。以下を参考にしてください。また、1年未満でもエラーが頻繁に発生する場合は、その前に交換をお願いします。

使用頻度	寿命の目安
1週間に1回	1年
1週間に3回	半年
毎日	3ヶ月

• 使用環境(温度・湿度・塵埃等)によって、目安より短くなることがあります。

DDSデータカートリッジの寿命管理として下記の手順を実施していただくことをお勧めします。

- 新しいDDSデータカートリッジに管理番号を割り当て、その番号をDDSデータカートリッジのラベルに記入しておきます。
- DDSデータカートリッジ管理台帳を作り、使用日を記録し、DDSデータカートリッジの使用年数と使用回数を見積もります。
- 定期的にDDSデータカートリッジの管理台帳と標識ラベルを調べ、長く使用されていたり、書き込み、読み取りエラーが発生するなど信頼性が低いDDSデータカートリッジを廃棄します。

また、テープ磁性層は、化学物質で構成されており、時間経過と共に劣化します。

この劣化によるテープ寿命は、テープ保管の環境(温度・湿度)により大きく異なりますが、カートリッジを使用していない場合でもテープを購入してから約3年を目安に交換してください。

重要なデータの保存について

重要なデータまたはプログラムなどを保存する場合には、万一の場合に備えて、正副2巻に保存することをお勧めします。
また、保存する際にはソフトウェアのベリファイ機能を利用し、保存したデータの確認も行うことをお勧めします。ベリファイ機能の利用方法については、各ソフトウェアの取扱説明書を参照してください。
こうしておけば、一方のテープがチリやホコリによるリードエラーを起こしても、もう一方のテープから復旧でき、大切なデータやプログラムの消失を防げます。

データの3世代管理について

ディスク上のデータを保存する場合は、保存したデータの3世代管理をお勧めします。
3世代管理は、テープ3巻(A､B､C)を使用して、ディスク上のデータを1日目はテープAに保存し、2日目はテープBに、3日目はテープCに保存していくものです。
これにより、例えば一巻のテープCがリードエラーを起こした場合には、データBを使用してデータを復旧でき、また、テープBがリードエラーを起こした場合でもテープAのデータを使用して大切なデータを復旧することができます。

データカートリッジの保管について

- 決められた保管状態を守り、保管場所を常に清潔にお保ちください。
- 書き込みを禁止にしておくことをお勧めします。
- 長期間にわたって保管する場合は、常にバックアップデータが復旧可能であることを確認するため、定期的にデータの読み出しを行うことをお勧めします。
- 万一の場合を想定してシステムから遠く離れた場所に保管しておくことをお勧めします。正副2巻のデータカートリッジがある場合は、正、副それぞれを異なる場所に保管しておくとさらに効果的です。

仕　様

本装置の仕様について記載します。

■ 性　能

記憶容量	160Gバイト（圧縮時 320Gバイト）：DDS4を8本使用時 96Gバイト（圧縮時 192Gバイト）：DDS3を8本使用時 32Gバイト（圧縮時 64Gバイト）：DDS2を8本使用時 • 圧縮時の値は圧縮効率が2倍である場合の値です。圧縮効率はデータパターンにより変化します。 • DDS4、DDS3、DDS2のデータカートリッジを混在してセットすることもできます。
ビットエラーコード	10^{-15}以下
データ転送速度（TAPE）	2.36Mバイト／秒（非圧縮時）：DDS4使用時
バーストデータ転送速度（SCSI）	14Mバイト／秒（最大、非同期） 40Mバイト／秒（最大、同期）
イニシャライズ時間	1秒未満
ロード時間	24秒未満
アンロード時間	20秒未満
巻き戻し時間	80秒未満

■ 環境条件

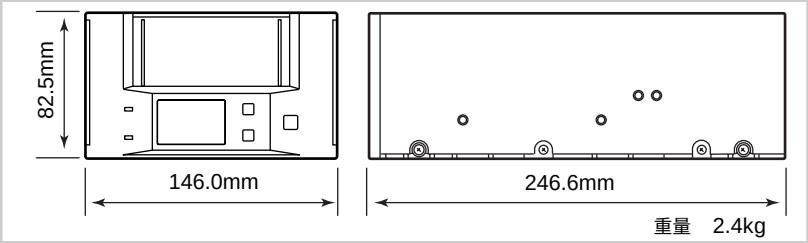
動作時	温度: 10℃～35℃ 湿度: 20%～80%（結露なきこと） 最大湿球温度: 26℃
保管時	温度: −5℃～40℃ 湿度: 10%～90% 最大湿球温度: 26℃

■ 電源仕様

電圧	5V±5%	12V±10%
電流（Max.）	2.9A	1.6A

■ **寸法・重量**

本体



マガジン　　83mm（幅）×38.7mm（高さ）×168.5mm（奥行）

重量　215g

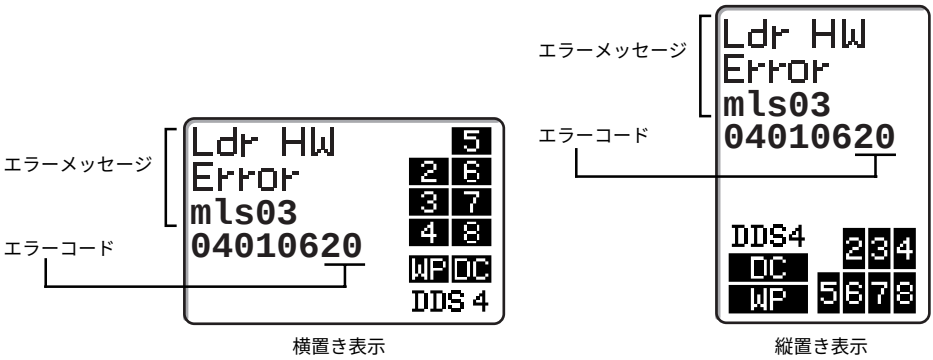
消耗品

ご購入の際は、お買い求めの販売店に連絡してください。

- クリーニングカートリッジ
- DDSマガジン

エラーメッセージ一覧

本装置に何らかのエラーが起きると、液晶ディスプレイにエラーメッセージが表示されます(「Ldr HW Error」か「Drv HW Error」のいずれかが表示されます)。また、エラーメッセージの下には、エラーの内容を示すエラーコードが表示されます。



次にエラーコードとその意味を示します。

エラーコード	意　味
10	マガジンロード・エラー
11	マガジンロード・モータ逆転時エラー
12	マガジンロード・モータ正転時エラー
20	マガジンイジェクト・エラー
21	マガジンイジェクト・モータ逆転時エラー
22	マガジンイジェクト・モータ正転時エラー
30	マガジン押し出し・エラー
31	マガジン押し出し・モータ逆転時エラー
32	マガジン押し出し・モータ正転時エラー
50	下段押し出し・エラー
51	下段押し出し・モータ逆転時エラー
52	下段押し出し・モータ正転時エラー

エラーコード	意　味
60	ドライブ段押し出し・エラー
61	ドライブ段押し出し・モータ逆転時エラー
62	ドライブ段押し出し・モータ正転時エラー
70	エレベータ・エラー
71	エレベータ・下降時エラー
72	エレベータ・上昇時エラー
80	トレー押し出し・エラー
81	トレー押し出し・モータ逆転時エラー
82	トレー押し出し・モータ正転時エラー
c1	下段押し出し時カセットなし
c2	カセットの誤挿入
c4	ドライブ段押し出し時カセットなし
d0	初期化時アーム動作不能
d1	イジェクトリクエスト
d2	初期化時エレベータ動作不能

運用状況お客様記入シート

本装置を保守・管理する際に必要な情報を記録しておくメモ欄です。

項目	記入欄
基本処理装置モデル名	
オペレーティングシステム(OS) (名称、バージョン、サービスパック／パッチの適用状況)	
ソフトウェア (名称、バージョン、サービスパック／パッチの適用状況)	
SCSIバス構成 (SCSI ID／同一バス上のデバイス)装置設置環境	
装置設置環境 (温度、湿度、ホコリの状況など)	
カートリッジ種類 (メーカ名、型番)	
クリーニングカートリッジ種類 (メーカ名、型番)	
クリーニングカートリッジ使用状況(クリーニング周期、使用回数や使用開始月の管理方法など)	
カートリッジ使用状況 (使用回数や使用開始月の管理方法など)	
カートリッジの管理状況	

トラブルシューティング チェックリスト

本製品が思うように動作しない場合は、修理に出す前に以下のチェックリストの内容に従って、本製品をチェックしてください。リストにある症状に当てはまる項目があるときは、処置に従ってください。

項番	症状	内蔵型 外付型	処置
1	☐ ドライブの電源が入らない。 ☐ LEDが点灯しない。	内蔵型	☐ ドライブにDCケーブルが正しく接続されていることを確認してください。 ☐ 集合型ドライブでは電源コネクタを2カ所持っているものがあります(専用のDCケーブルが必要なドライブがあります)。取扱説明書を確認して正しく接続されていることを確認してください。 ☐ DCケーブルの接触不良が無いか、挿抜して確認してください。
		外付型	☐ ドライブにACケーブルが正しく接続されていることを確認してください。 ☐ ACケーブルが正しくコンセントに接続されていることを確認してください。
	☐ システム起動時にドライブが正しく認識されない。	内蔵型 外付型	☐ ドライブにSCSIケーブルが正しく接続されていることを確認してください。 ☐ SCSIケーブルが正しくSCSI I/F(SCSIボードのコネクタ、MBのコネクタなど)に接続されていることを確認してください。 ☐ 同一SCSIバス上の他のドライブとSCSI IDが同じではないか確認してください。 → 同じSCSI IDのドライブがある場合、どちらかのIDを使われていない番号へ変更してください("7"はホスト側が使用しているため、割り当てないでください)。

項番	症状	内蔵型 外付型	処置
2	☐ システム起動時にドライブが正しく認識されない。	内蔵型 外付型	☐ 終端抵抗が正しく接続・設定されていることを確認してください。 → 終端抵抗はSCSIバスの両最遠端に接続されている必要があります。 ・ 最遠端がケーブル(コネクタ)の場合、終端コネクタが接続されていることを確認してください。 ・ 最遠端が内蔵型ドライブの場合、ドライブの終端抵抗設定がONとなっていることを確認してください。 ・ 最遠端が外付型ドライブの場合、終端コネクタが接続されていることを確認してください。 ・ 最遠端がSCSIボード(MB)の場合、SCSI BIOSなどで正しく設定されていることを確認してください(それぞれの取扱説明書を参照してください)。 ・ 最遠端でないドライブの終端抵抗がONとなっていないことを確認してください。 ☐ PINタイプのSCSIコネクタの場合、PIN折れが発生していないか確認してください(内蔵型50pinのドライブ側、内蔵／外付68pinのケーブル側、外付型50pin[PINタイプ]のケーブル側など)。 → 折れたPINを元に戻して使わずに、ドライブあるいはケーブルを交換してください。 ☐ SCSI BIOSの設定が正しいか確認してください(取扱説明書に設定方法がかかれている場合は参照してください。SCSI BIOSが変更できないものもあります)。 ☐ システム構成上、正しい位置に接続されているか確認してください。
3	☐ OS起動後にドライブが正しく認識されない。(システム起動時は正しく認識されていた。)	内蔵型 外付型	☐ デバイスドライバが正しくインストールされているか確認してください。 → 自動的にインストールされる場合と、手動でインストールする必要のある場合があります。またデバイスドライバが製品に添付されている場合があります。取扱説明書を参照してください。 ☐ デバイスドライバが正しく起動されているか確認してください。

項番	症状	内蔵型 外付型	処置
4	□ 正しくテープを認識しない。 □ 正しくバックアップができない。 (バックアップソフトはドライブを正しく認識している。)	内蔵型 外付型	□ クリーニングテープでヘッドのクリーニングを行ってください。 □ データテープを新品と交換してください。 □ 正しいデータテープを使用しているか確認してください。 → ・ DDS2ドライブにDDS3テープを使用していないか、などのドライブとテープの組み合わせは正しいか確認してください。 ・ 動作保証のされたテープを使用しているか確認してください。 ・ 寿命に達したテープを使用していないか確認してください。 ・ エラーの発生していたテープを使用していないか確認してください。 □ SCSIケーブル、コネクタ、終端抵抗等の接続に問題がある可能性があります。 → もう１度接続を確認してください。 □ 温度・湿度の異なる環境から持ち込んだドライブは、使用環境に十分馴染んでいない場合があります。環境の馴染ませを行ってから使用してください。 □ 空調管理の行われていない環境でシステム起動直後にバックアップを行うと、ドライブが環境に十分馴染んでいない場合があります。環境に十分馴染んでからバックアップするように運用の変更を行ってください(夜間のシステム起動・バックアップ開始などで発生しやすい)。
5	□ 正しくバックアップができない。 (バックアップソフトがドライブを正しく認識していない。)	内蔵型 外付型	□ バックアップソフトが正しくインストールされているか確認してください。 □ SCSIバス上の他のデバイスとIDが重複していないか確認してください。 □ ソフトウェア同士の競合が発生していないか確認してください。 → 同時に使用できないデバイスドライバが組み込まれている場合に片方のドライバを外す必要のある場合があります。詳しくはソフトウェア側の説明書を参照してください。 □ SCSIケーブル、コネクタ、終端抵抗等の接続に問題がある可能性があります。 → もう１度接続を確認してください。

項番	症状	内蔵型 外付型	処置
6	☐ 正しくバックアップができない。 (LEDが点滅している、LCDにエラーを表示している。)	内蔵型 外付型	☐ 取扱説明書にLED・LCDの表示に関する説明がある場合は、それを参照してください。 → ・ クリーニング要求の出ている場合は、クリーニング実施後にバックアップを行い、再発するようであればデータテープの交換を行ってください。 ・ エラー表示(ERRxxなど)の出ている場合は、ドライブに何らかの不具合を生じていることが考えられるため、ドライブの交換を行ってください。
7	☐ テープが取り出せない。 (データテープの場合)	内蔵型 外付型	☐ バックアップソフトで自動排出を設定したにも関わらず排出されない場合は、正しくバックアップができていないことが考えられます。 → 項番4～6を参照してください。 ☐ ドライブのEJECTキーを押下してもテープが排出されない場合は、バックアップソフトによるソフトウェア的なロックのはたらいていることが考えられます。 → ・ ソフトウェアを終了させてください。 ・ システムを再起動してください。 ・ 電源のOFF/ONを行ってください。 ☐ ドライブが何らかの不具合を検出して排出させないようにしていることが考えられます。 → ・ 強制排出の手順に従い、手動で取り出すことをお勧めします。 ・ システムを停止できないため手動取り出しが行えない場合、EJECTキーを一定時間(5秒または10秒)以上押下し続けることで強制排出されるドライブがありますので、これを行ってください。 ・ システムを再起動してください。 ・ 電源のOFF/ONを行ってください。 ☐ テープがドライブ内部で絡まっていること(テープジャム)が考えられます。 → ・ 強制排出の手順に従い、手動で取り出してください。 ・ テープジャムを起こしたドライブは、内部のヘッド・ドラム・各ガイドピンなどを傷めていることが考えられるため、ドライブ交換を行ってください。

項番	症状	内蔵型 外付型	処置
8	□ テープが取り出せない。 （クリーニングテープの場合）	内蔵型 外付型	□ 使い切ったクリーニングテープを挿入した場合、あるいはクリーニング中に使い切ったため正常にクリーニングが終了しなかった場合に、それを知らせるためにクリーニングテープが排出されないドライブがあります。 → EJECTキーを押下してクリーニングテープを取り出し、新しいクリーニングテープでクリーニングを再度行ってください。 □ テープがドライブ内部で絡まっていること（テープジャム）が考えられます。 → ・ 強制排出の手順に従い、手動で取り出してください。 ・ テープジャムを起こしたドライブは、内部のヘッド・ドラム・各ガイドピンなどを傷めていることが考えられるため、ドライブ交換を行ってください。
9	□ マガジンが排出されない。 （集合型の場合）	内蔵型 外付型	□ BUSY LEDが点滅していないか確認してください。 → テープの読み取りに時間がかかっている可能性があります。テープの読み取りが終わるまでお待ちください。読み取りエラーが発生した場合はテープを交換してください。
10	□ テープが排出される。 (データテープの場合)	内蔵型 外付型	□ 正しいデータテープを使用しているか確認してください。 → ・ DDS2ドライブにDDS3テープを使用していないか、などのドライブとテープの組み合わせは正しいか確認してください。 ・ 動作保証のされたテープを使用しているか確認してください。 ・ 寿命に達したテープを使用していないか確認してください。 ・ エラーの発生していたテープを使用していないか確認してください。 □ ヘッドが汚れている可能性があります。 → ヘッドが汚れていた場合、書き込み／読み取り時に失敗しテープを排出する場合があります。クリーニングを行ってください。
11	□ テープが排出される。 （クリーニングテープの場合）	内蔵型 外付型	□ クリーニングテープを使い切っている可能性があります。 → 新しいクリーニングテープに交換してください。

MN8151-39
内蔵DAT集合型取扱説明書

2003年2月 初版
2003年2月 第2版

許可なく複製・改変などを行うことはできません。
本書の内容は予告なく変更することがあります。

Printed in Japan
このマニュアルは再生紙を使用しています。